

福井大学学術協定校への派遣留学（交換留学）月例報告書（9月）

留学先：カセサート大学

氏名：土田郁子

あっという間に1ヶ月が経ち、9月に入ったあたりにはもうタイでの生活になれていました。交通機関にも詳しくなってきたので、中旬あたりに福井大学からタイに交換留学している学生3人で、パタヤへ2泊3日の旅行をしてきました。安く、簡単に目的地へ着くことができた上に、着いてからも観光客用の価格に設定されたご飯に釣られることなくローカルフードを選んだことから、慣れと適応の成長を我ながら感じました。

パタヤから帰ってきた後は、中間テスト期間ということで学内や大学近辺でカセサート大学でできた友人たちと過ごすことが多くなりました。中間テスト期間に私が誕生日を迎えたため、友人たちがお祝いをしてくれたり、別の友人が誕生日を迎えたときにはまたお祝いをしたりと勉強に煮詰まりながらも暖かい1週間を過ごさせてもらいました。先月は留学が始まったばかりで、とりあえずいろいろな人と話してみたり、遊びに行ったりしていたため少し疲れることもありましたが、今回は、主に同じ授業を取っている留学生たちと多く交流したため、日本人同士だけで集まって閉鎖的に過ごすわけでもなく、全く会わなくなった人を積極的に遊びに誘うわけでもなく、安定した交友関係を築くことができました。授業が同じでも、あまり喋ったことがない人と仲良くなり始めてみて、無理のない範囲で友達を増やしていき、自分が心地よいと感じる環境をつくることができました。

また、中間テストとは別に、授業によってはプレゼンテーションやグループレポートが課されました。これらのグループワークをするにあたって、福井大学で学習したことがとても役に立ちました。まず、プレゼンテーションでは、グループで構成やパートごとの内容を決める際に、母国で経営を専攻しているフランス人学生と話し合い、専門知識では負けるためどうしたらわかりやすく伝えることができるか提案し、導入部分や結論部分でまとまった構成になるように自らそのパートを造り上げ、プレゼンテーションを完成させました。グループレポートでは、日本人の学生1人と私で、計15枚のレポートを作成しました。メンバーの学生は、日本での専攻が経済ということもあり、Writingは未履修だったので、フォーマットを揃えることや、アカデミックな文法に修正すること、参考文献のまとめを私がしました。これらを通して、福井大学でディスカッションができるレベルの基礎英語力や、様々な授業で課せられたプレゼンテーションで得た、伝えようとする力、そして英語での基本的なレポートの書き方を学習していて本当に良かったと感じています。こうやって、面倒だと感じていた福井大学での課題や授業を通して、知識や能力を習得できていると感じる

と、私はもっと習得できていた能力があったのではないかと思うようになってきました。例えば、質的調査法や経営学概論で学べることは、その授業の課題だけではなく様々な授業の課題に使える基礎的な知識や分析方法であり、もっと真面目に受講しておけばよかったと後悔しています。また、経営や経済を専攻している学生から刺激され、マクロ経済や経営系の授業をもっと受講しておけば良かったと感じています。新たな環境でのグループワークは、今までの学習の成果を振り返ることもできる上に、他の学生から新たな知識を得ることができる良い機会であると身をもって経験しました。私が他の学生から刺激をもらったように、他の学生も私から何かしら刺激を感じてくれていたらと願っています。

レポートやプレゼンテーションは福井大学で慣れていたのですが、複数の教科から筆記テストが課せられることがあまりなかったため、受かるかどうか不安でしかありませんでしたが、どの教科の先生方も対応が優しく真剣に教えてくれたため、報いるようにできる限り努力しました。後から知ったのですが、中間テストの結果をうけて、授業を履修中止するかどうか決められるそうです。私はたぶん最期まで履修します。



↑ 3人でパタヤへ向かう道中（バス）